

# 田沼意次の政権

10代将軍徳川家治は、田沼意次を側用人、老中と栄進させ、その手腕・開明性に期待した。意次は、経済活動の活発化を幕府財政の再建の活路と考え、正統的で当を得た政策を進めた。しかし、政策に伴う商人の富獲得は、自然災害で不安定になった民衆の不満を増大させ、意次の贈取賄疑惑を浮上させる隙を生んでしまった。

## ○田沼時代

### ●田沼時代の成立

1760年、9代将軍徳川家重いえしげの後、10代将軍に<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ が就任した。  
 →1772年、<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ が側用人そばようじんから<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_ となり、幕政の実権を握った。  
 ⇒(2)が幕政の実権を握り、財政の再建に臨んだ時代を田沼時代と呼ぶ。



図1 徳川家治

### <商業奨励による財政再建>

商人・職人の仲間を広く公認して<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ を増加させた。  
 ⇒公認の代わりに営業税<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ ・<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ を課すことで財源を増加させた。  
 ◇銅・鉄・真鍮・朝鮮人参などを幕府の専売とし、直営の施設<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ を設置



図2 南鐐二朱銀  
\*表(左)・裏(右)

### <貨幣統一による商業円滑化>

秤量貨幣しょうりょうである銀貨を計数貨幣化することで金貨に連結しようとした。  
 ⇒1772年に鑄造された、金2朱しゅと等価の<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ が有名である。

### <蝦夷地の調査・開発と長崎貿易>

<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ の調査で、ロシア人との交易の可能性や進出への対処策を探ろうとした。  
 ⇒また、(9)の産物「干し鮑あわび・いりこ・ふかひれ」などにも注目し、  
 長崎貿易でこれらを<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ として清に輸出し、金銀の獲得を目指した。



図3 俵物

↓  
 仙台藩の医師<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ の著書『<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ 』を参考に、  
<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ らを(9)に派遣した。

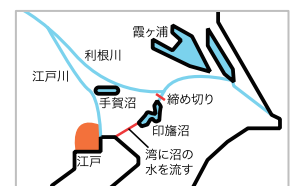


図4 印旛沼・手賀沼

### <新田開発>

<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ ・手賀沼てがの干拓を進め、新田開発を試みた(利根川の洪水で挫折)。

### ●同時代の朝廷

- ①1758年、<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_  
 ...<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ が、公家に神道や大義名分論を教授し、追放された事件
- ②後桃園天皇の死後、閑院宮家の光格天皇が即位



図5 竹内式部

### ●田沼時代の終焉

1782年からの<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ は社会不安を増大させ、全て田沼意次の責任にされた。  
 →1784年、意次の子田沼意知おきともが江戸城内で佐野政言まさことに刺殺された。  
 ⇒強まる非難に意次は追い込まれ、1786年の徳川家治の死後、老中ひめんを罷免された。  
 ◇佐野政言…刺殺後、偶然米価が下落したため、民衆は彼を「世直し大明神だいましょうじん」と評価



図6 田沼意次